

ノート

右側歩脚が3本の奇形ズワイガニについて

松井芳房^{*1}・増田恵一^{*2}An Abnormal Form of the Snow Crab *Chionoecetes opilio* O. Fabricius with Three Ambulatory Legs in the Right SideYoshifusa MATSUI ^{*1} and Keiichi MASUDA ^{*2}

キーワード: ズワイガニ, 奇形, 但馬沖

ズワイガニ属の奇形については、ズワイガニ *Chionoecetes opilio* O. Fabricius では伊藤¹⁻⁴⁾の、ベニズワイガニ *Chionoecetes japonicus* Rathbun では水沢⁵⁾、本尾⁶⁾および丹下⁷⁾の事例報告がある。

今回、これらと奇形部位が異なる標本を観察する機会を得たので報告する。

材 料

標本の採集状況は以下の通りである。

- ①採集年月日 2000年11月10日
- ②採集場所 兵庫県城崎郡竹野町沖
- ③採集水深 250m
- ④採集漁法 小型底曳網漁業

結果および考察

標本の性別は雌、甲幅は82mm、甲長は78mm、体重は237.3gである。背面の写真を第1図に、腹面の写真を第2図に示す。ズワイガニを含む十脚目短尾類は一对の鉗脚と四対の歩脚を有しているが、この標本は右第一歩脚が欠落しており、右側歩脚が三本である。

腹面側から観察すると第一歩脚の底節から欠けているように見え、その痕跡もなく、鉗脚と三本の歩脚がほぼ等間隔で配置していた。また右鉗脚が左鉗脚と比べて小さいのも特徴的である。

伊藤⁴⁾は、兵庫県浜坂町沖で漁獲された第3歩脚が欠落した奇形ズワイガニについて報告している。今回の標本もその例と類似しているが、欠落した歩脚の部位が異なっており、右鉗脚が小さくなっている点も異なっている。

今回得られた標本の奇形化した原因は明らかでないが、ズワイガニの場合、歩脚の自切現象を起こす割合が高いこと⁴⁾などから考えて、この個体は若い齢期に第一歩脚を失い、その後再生芽の新生が抑止されたため、ついにこの歩脚は再生されず、幾度かの脱皮を経過して現在に至ったものではないかと推測される。

最後に、標本を提供された兵庫県竹野町、竹野浜漁業協同組合所属の小型底曳網漁業船、大佑丸船長の膳所平八郎氏他乗組員の方々に謝意を表す。

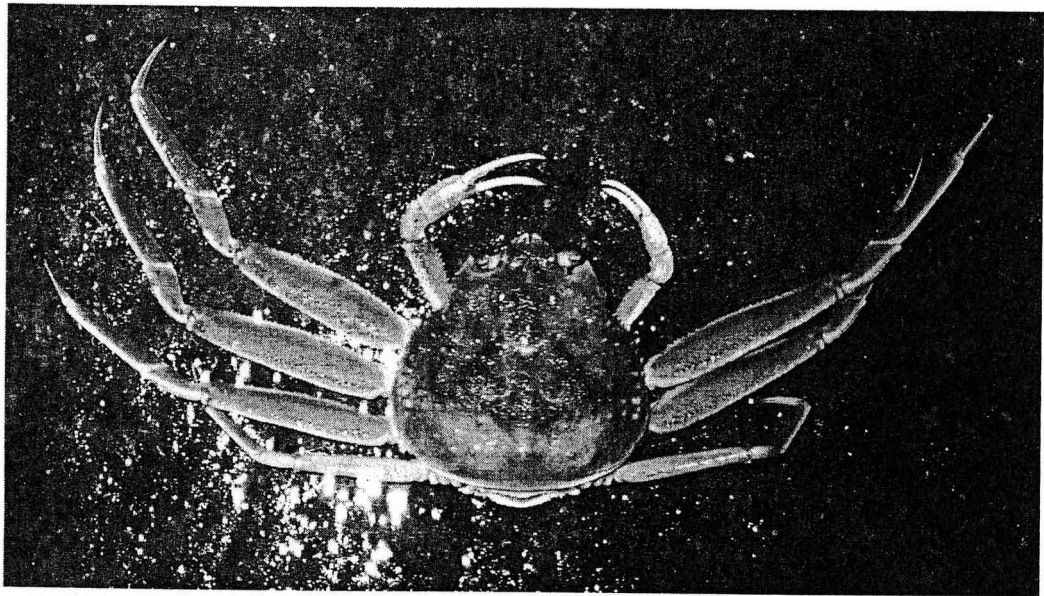
文 献

- 1) 伊藤勝千代: ズワイガニの第二歩脚指節の奇形.

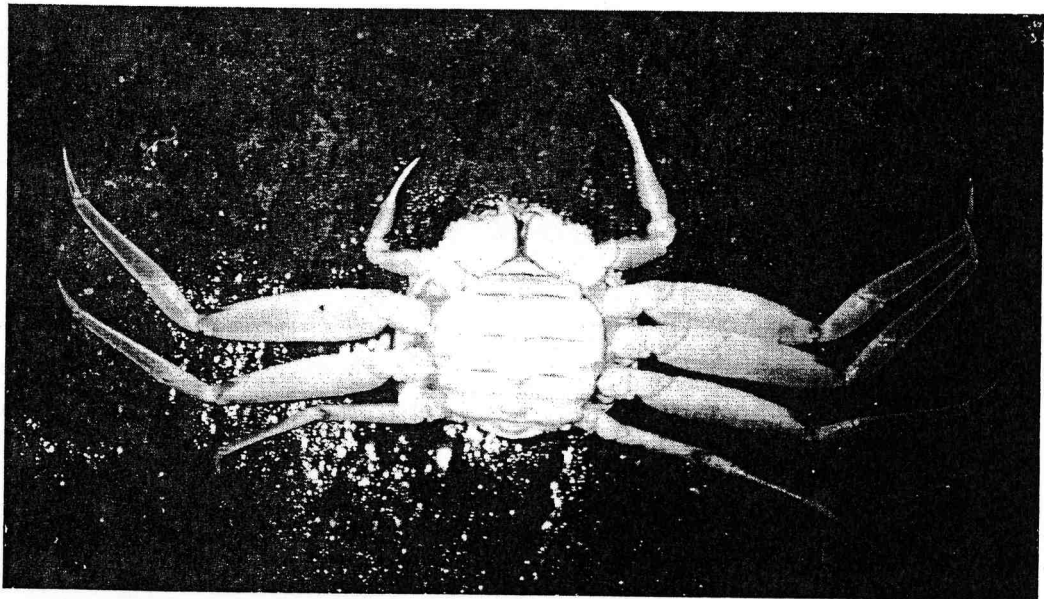
^{*1}兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター (669-6541 兵庫県城崎郡香住町境 1126-5)

^{*2}兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター (674-0093 兵庫県明石市二見町南二見 22-2)

- 採集と飼育, 18(11), 347 (1956).
- 2) 伊藤勝千代: 再び山陰沖から採捕されたズワイガニの奇形. 採集と飼育, 22(4), 123-125 (1960).
 - 3) 伊藤勝千代: ズワイガニに見出された奇形2例について. 日水研報告, 14, 91-93 (1967).
 - 4) 伊藤勝千代: 左側の歩脚が3本の奇形ズワイガニについて. 日水研報告, 17, 141-142 (1967).
 - 5) 水沢六郎・佐藤 優: ベニズワイガニの奇形観察. 採集と飼育, 17(9), 123 (1965).
 - 6) 本尾 洋: ベニズワイガニ左鉗脚の奇形2例. 甲殻類の研究, (4/5), 184-190 (1971).
 - 7) 丹下勝義・岩佐隆宏: 右側鉗脚が2本の奇形ベニズワイガニについて. 兵庫水試研報, 29, 73-76 (1991).



第1図 背面から見た奇形ズワイガニ



第2図 腹面から見た奇形ズワイガニ